

ナシ黒星病菌子のう胞子の飛散盛期は開花期頃である

福島県農業総合センター 果樹研究所 病害虫科

1 部門名

果樹－ナシ－病害虫防除

2 担当者名

藤田剛輝、菅野孝盛、七海隆之

3 要旨

ナシ黒星病の病原菌は罹病落葉で越冬し、春に第一次伝染源である子のう胞子を形成する。子のう胞子の飛散推移の把握は本病の防除対策上重要であるため、2019年～2020年に調査を実施した。その結果、3月4半旬から5月5半旬まで飛散が確認され、飛散盛期は開花期頃であったため、当該時期が重要防除時期であることを改めて確認した。

- (1) 2019年の飛散盛期：4月6半旬と5月3半旬 開花期：4月18日から5月1日（図1）。
2020年の飛散盛期：4月3半旬と4月5半旬 開花期：4月16日から5月3日（図2）。
- (2) 防除対策は、落葉処理を実施するとともに、子のう胞子の飛散時期の薬剤防除を徹底する。なお、胞子の飛散は降雨後に増加したため、降雨前の予防散布を徹底する。また、飛散盛期となる開花期は本病の果実感受性が高まるため、開花直前及び落花直後にDMI剤を10日間隔で散布する。間隔があく場合は、受粉への影響に注意して追加防除を行う。

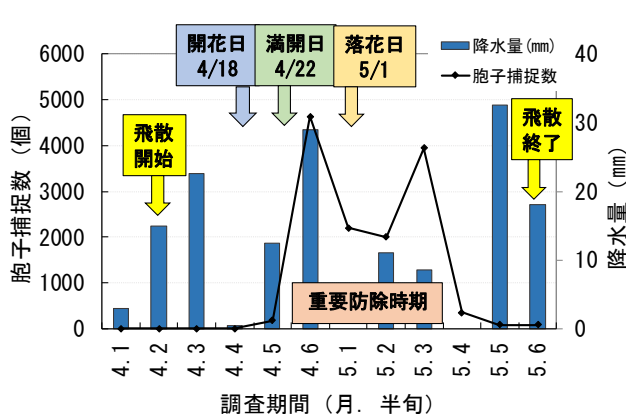


図1 子のう胞子の飛散消長（2019年）

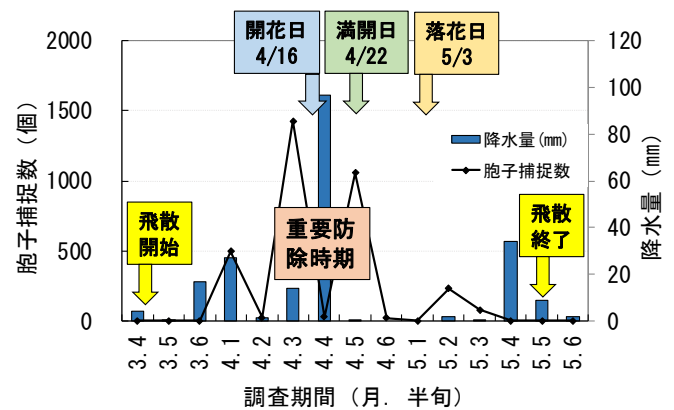


図2 子のう胞子の飛散消長（2020年）

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成27年度～令和2年度
- (2) 研究課題名 果樹病害虫の防除法改善試験

5 主な参考文献・資料

- (1) 梅本清作, ニホンナシ黒星病の発生生態と防除に関する研究, 千葉県農業試験場特別報告, 22, p.30～31, 1993.